

## 3月4日「剪定日記その1」

掲載日:2009年3月4日

### 3月4日(水曜日) 剪定日記その1

数日前、産業振興課の先輩・佐藤さんに

佐藤さん 「ウサヒ、リンゴの剪定いかない？」

と誘われたウサヒ。

論文の提出も終わってほっと一息のウサヒは、久々の取材活動ということでふたつ返事了解したのです。

ウサヒ 「いきます。どこに剪定行くんですか？」

佐藤さん 「今の時期ならどこでも剪定やってるから、まっ、任せといてよ」

ということで、佐藤さんにお任せしたまま、取材当日になったわけです。

3月3日当日、ウサヒとカメラマンの池田君が役場に到着

ウサヒ 「佐藤さん、今日はよろしくお願いします」

佐藤さん 「よし、誰のどこいこうかな！この時間だと・・・」

電話番号を調べる佐藤さん

ウサヒ 「(まさか・・・今から行く先決めるの?)」

佐藤さん 「はい、今から行きますが、OKですか、あ、はい、よろしくお願いしますー」

すげえ、お手頃感。

この辺のノリのよさに朝日町の潜在能力の高さをうかがい知ることができる(中の人談)

というわけで、役場の車に乗ってリンゴ畑へと向かいました。

ウサヒ「行く場所って、さっき決めたんですか？」

佐藤さん「まっそうなんだけど、いくつかお目当ての農家さんがあったから、今のタイミングに一番都合がいいところにしたんだ。」

ウサヒ「超テキトーに決めたのかと思ってました」

佐藤さん「農家の仕事は天候とかとのタイミングが大事だからね、取材するほうも臨機応変に対応できるほうがいいんだよ。そういう意味でウサヒは取材のために自由な時間に動けるから、こういう取材にはぴったりだよね。」

確かに、取材活動で一番大変なのが、取材する方に時間を合わせていただくことなんです。今回は佐藤さんが、第2話、3話の取材ではエコミュージアムのようお姉さん時間のもろもろの調整を行ってくれたので、スムーズに話がまとまりました。

結局、町の人たちのナイスアシストで、ウサヒのあさひまち探検はできています。(いつもありがとうございます。)

さて、そんなことを話している間にリンゴ畑に到着しました



ウサビ 「ディズニーアニメに出てくるような木ばかりだぁ」

ウサビが言っているのは、ウォルト・ディズニーのアニメに出てくる、複雑に枝が曲がった魔女の森のことを言っているのだと思われる

謎の男性 「お、来たな着ぐるみ」

リンゴ畑の奥のほうから、ディズニーキャラクター……もとい、謎の男性が現れた！



それにしても、葉っぱがないと異様な枝の形状をしているリンゴの木

佐藤さん 「こちら、リンゴ農家の白田富彦さんです。」

白田さん 「よろしく！」

ウサビ 「こんにちは、歌って踊れる役場の着ぐるみ桃色ウサビです。」



白田さん 「今日は、リンゴ畑を荒らしにきたらしいな。俺がみっちりリンゴ剪定の極意を教えてやる。」

ウサビ 「(早くも害獣扱いだ)望むところです。短期間で剪定を覚えて、ボクは白田さん、あなたを超えてみせる！」



いつになく少年漫画のような熱い展開が起こりそうな雰囲気

これは、今回の取材は熱いぞと思ったそのとき…

佐藤さん 「あ、剪定ばさみがない！！」

ウサビ 「え？」

白田さん 「剪定ばさみないんじゃ、作業できないなあ」

ウサビ 「ええ？？？」

どうやら、誰がウサビ用の剪定バサミを用意するか決めていなかったらしく、ウサビの道具がまったくない状態に……

「ウサビのリンゴ剪定」まさかの終了……

白田さん 「仕方ないからうちから取ってくっか」

佐藤さん 「じゃあ、私も一緒に。ウサビ、ちょっとまってて」

ウサヒ 「あ、うん……」



なんだかよくわからないまま、待機を命じられたウサヒ



畑にひとりぼっち

……

……



とりあえずカメラの池田君と枝でちゃんばらをする

5分経過



すげえヒマ……(ニンテンドーDS もってくればよかった)

ラジオを聴いて暇つぶし

ラジオからは卒業シーズンをイメージした曲たちが流れます



ウサビ 「……レミオロメン……いい曲だなぁ……」

ウサビはパフュームも好きだけどレミオロメンも好きだよ

久しぶりにラジオを聞いて、なんだか心があたたかくなったウサビ

ウサビ 「……ラジオのある生活……プライスレス……」



作業のお供にはやっぱりラジオだなぁとしみじみ感じるウサビ



15 分後、2 人が戻ってきました



白田さん「待たせたなウサヒ！これをつける」

ウサヒ「はい！ラジオのおかげでやる気十分さ。今日の着ぐるみはキレが違うよ。」

いつになくやる気のウサヒ



剪定工具セットを受け取る



でも、ひとりでは装着できないので白田さんにつけてもらう事に



装着完了！！(けっこう様になっている)

白田さん「よし、じゃあまずは俺が見本を見せてやる。ついてこい。」

ウサビ「はい、白田さん……いや……師匠！！」

というわけで、白田さん(以後・師匠)は脚立をもって剪定されていない木へと向かったのです。  
た。

つづく！